

新規採用・削除医薬品等通知

薬剤部 医薬品情報管理係

新規採用医薬品通知

(薬品名)	テネリア錠 20mg	市販直後調査 平成 24 年 9 月～平成 25 年 3 月
(英名)	TENELIA Tablets 20mg	
(規格・含有量)	20mg/1錠 1錠中、有効成分テネリグリブチンとして 20mg を含有	
(一般名)	テネリグリブチン臭化水素酸塩水和物錠	
(メーカー名)	田辺三菱製薬	
【薬価収載日】	2012 年 8 月	
【薬価】	1錠：207.7 円	
【薬効コード】	873969	
【薬効分類名】	選択的DPP-4阻害剤	
効能・効果	2 型糖尿病 ただし、下記のいずれかの治療で十分な効果が得られない場合に限る。 ①食事療法、運動療法のみ ②食事療法、運動療法に加えてスルホニルウレア系薬剤を使用 ③食事療法、運動療法に加えてチアゾリジン系薬剤を使用	
用法・用量	通常、成人にはテネリグリブチンとして20mgを1日1回経口投与する。なお、効果不十分な場合には、経過を十分に観察しながら40mg1日1回に増量することができる。	
禁忌	①本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 ②重症ケトosis、糖尿病性昏睡又は前昏睡、1型糖尿病の患者〔輸液及びインスリンによる速やかな高血糖の是正が必須となるので本剤の投与は適さない。〕 ③重症感染症、手術前後、重篤な外傷のある患者〔インスリン注射による血糖管理が望まれるので本剤の投与は適さない。〕	
相互作用	本剤他剤副作用増強 糖尿病用薬（スルホニルウレア系薬剤、速効型インスリン分泌促進剤、 α -グルコシダーゼ阻害剤、ビッグアニド系薬剤、チアゾリジン系薬剤、GLP-1アナログ製剤、インスリン製剤等） 血糖降下作用を増強する薬剤（ β -遮断剤、サリチル酸剤、モノアミン酸化酵素阻害剤等） 他剤作用増強 血糖降下作用を減弱する薬剤（アドレナリン、副腎皮質ホルモン、甲状腺ホルモン等） QT延長を起こすことが知られている薬剤（クラスIA 抗不整脈薬；キニジン硫酸塩水和物、プロカインアミド塩酸塩等、クラスIII抗不整脈薬；アミオダロン塩酸塩、ソタロール塩酸塩等）	
副作用	重大な副作用 低血糖症、腸閉塞 その他 胃腸障害（悪心、便秘、腹部膨満等）、肝機能検査値異常	

(薬品名)	グルベス配合錠	市販直後調査 平成 22 年 1 月～平成 22 年 7 月
(英名)	GLUBES Combination Tablets	
(規格・含有量)	1錠中、有効成分ミチグリニドカルシウム水和物(10mg)及びボグリボース(0.2mg)を含有	
(一般名)	ミチグリニドカルシウム水和物/ボグリボース配合錠	
(メーカー名)	キッセイ薬品工業	
【薬価収載日】	2011 年 7 月	
【薬価】	1錠：56.9 円	
【薬効コード】	873969	
【薬効分類名】	速効型インスリン分泌促進薬 食後過血糖改善薬配合剤	
効能・効果	2型糖尿病 ただし、ミチグリニドカルシウム水和物及びボグリボースの併用による治療が適切と判断される場合に限る。	

用法・用量	通常、成人には1回1錠(ミチグリニドカルシウム水和物/ボグリボースとして10mg/0.2mg)を1日3回毎食直前に経口投与する。
禁忌	①重症ケトーシス、糖尿病性昏睡又は前昏睡、1型糖尿病の患者 ②重症感染症、手術前後、重篤な外傷のある患者 ③本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 ④妊婦又は妊娠している可能性のある婦人
相互作用	本剤他剤作用増強 インスリン製剤、ビッグアナイド系薬剤(メホルミン塩酸塩等)、速効型インスリン、分泌促進剤(ナテグリニド等)、 α -グルコシダーゼ阻害剤(アカルボース等)、チアゾリジン系薬剤(ピオグリタゾン塩酸塩)、選択的DPP-4阻害剤(シタグリプチンリン酸塩水和物等)、GLP-1アナログ製剤(リラグルチド(遺伝子組換え)等) 本剤作用増強 サリチル酸製剤(アスピリン等)、クロフィブラート等、サルファ剤(スルファメトキサゾール等)、 β -遮断剤(プロプラノロール塩酸塩等)、モノアミン酸化酵素阻害剤、タンパク同化ホルモン剤(メスタノロン等)、テトラサイクリン系抗生物質(テトラサイクリン塩酸塩、ミノサイクリン塩酸塩等)、ワルファリン 本剤作用減弱 エピネフリン、副腎皮質ホルモン(メチルプレドニゾロン等)、卵胞ホルモン(エチニルエストラジオール等)、ニコチン酸、イソニアジド、ピラジナミド、フェノチアジン系薬剤(クロルプロマジン等)、利尿剤(チアジド系、クロルタリドン、エタクリン酸等)、フェニトイン
副作用	重大な副作用 心筋梗塞、低血糖、腸閉塞、劇症肝炎、肝機能障害、黄疸、意識障害 その他 低血糖症状、口渇、胸やけ、胃炎、胃潰瘍、腹部膨満等

(薬品名)	アイファガン点眼液 0.1%	市販直後調査 平成24年5月～平成24年11月
(英名)	AIPHAGAN Ophthalmic Solution 0.1%	
(規格・含有量)	5mL/瓶 1mL中ブリモニジン酒石酸塩1mgを含量	
(一般名)	ブリモニジン酒石酸塩点眼液	
(メーカー名)	千寿製薬	
【薬価収載日】	2012年4月	
【薬価】	438.20円/1mL	
【薬効コード】	871319	
【薬効分類名】	緑内障・高眼圧症治療剤	
効能・効果	次の疾患で、他の緑内障治療薬が効果不十分又は使用できない場合:緑内障、高眼圧症	
用法・用量	通常、1回1滴、1日2回点眼する。	
禁忌	①本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 ②低出生体重児、新生児、乳児又は2歳未満の幼児	
相互作用	本剤他剤副作用増強 降圧薬、中枢神経抑制剤(バルビツール酸誘導体、オピオイド系鎮痛剤・鎮静剤・麻酔剤等)、アルコール、モノアミン酸化酵素阻害剤	
副作用	その他 点状角膜炎、結膜炎(アレルギー性結膜炎を含む)等	

(薬品名)	オキファスト注 10mg・50mg	劇、麻 市販直後調査 平成24年5月～平成24年11月
(英名)	Oxifast Injection	
(規格・含有量)	10、50mg/管 1管中、オキシコドン塩酸塩水和物10、50mgを含有	
(一般名)	オキシコドン塩酸塩水和物注射液	
(メーカー名)	塩野義製薬	
【薬価収載日】	2012年4月	
【薬価】	352円/1管(10mg)、1,609円/1管(50mg)	
【薬効コード】	878119	
【薬効分類名】	癌疼痛治療用注射剤	
効能・効果	中等度から高度の疼痛を伴う各種癌における鎮痛	
用法・用量	通常、成人にはオキシコドン塩酸塩(無水物)として1日7.5～250mgを持続静脈内又は持続皮下投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。	
禁忌	①重篤な呼吸抑制のある患者、重篤な慢性閉塞性肺疾患の患者 ②気管支喘息発作中の患者 ③慢性肺疾患に続発する心不全の患者 ④痙攣状態(てんかん重積症、破傷風、ストリキニーネ中毒)にある患者 ⑤麻痺性イレウスの患者 ⑥急性アルコール中毒の患者 ⑦アヘンアルカロイドに対し過敏症の患者 ⑧出血性大腸炎の患者	

相互作用	本剤他剤副作用増強 中枢神経抑制剤(フェノチアジン誘導体、バルビツール酸誘導体等)、吸入麻酔剤、MAO阻害剤、三環系抗うつ剤、 β 遮断剤、アルコール、抗コリン作用を有する薬剤 他剤作用増強 クマリン系抗凝血剤(ワルファリン) 本剤作用増強 トリアゾール系抗真菌剤(ポリコナゾール、フルコナゾール等) 本剤作用減弱 ブプレノルフィン、ペンタゾシン等
副作用	重大な副作用 ショック、アナフィラキシー様症状、依存性、呼吸抑制、錯乱、譫妄、無気肺、気管支痙攣、喉頭浮腫、麻痺性イレウス、中毒性巨大結腸、肝機能障害 その他 眠気・傾眠、便秘、嘔気、嘔吐、発赤

剤形変更通知

今回採用医薬品(採用)	従来採用医薬品(削除)
●11月1日より ラックビー錠	ラックビー微粒 N 1gヒート、500g
●11月5日より グラニセトロン点滴静注バッグ 3mg/50mL「NK」	グラニセトロン静注液 3mg

削除医薬品通知

●11月1日より	
コナン錠 10mg	削除
カムリード Cap 25 μ g	削除
シンセロン錠 8mg	削除
ノフロ点眼液 0.3% 5mL	削除
ラックビー微粒 N 1gヒート	削除
ラックビー微粒 N 500g	削除
●11月5日より	
グラニセトロン静注液 3mg	削除

適応追加通知

<p>プラビックス錠 75 mg</p>	<p>末梢動脈疾患における血栓・塞栓形成の抑制 通常、成人には、クロピドグレルとして75mgを1日1回経口投与する。</p>
<p>ゾシン静注用 4.5g</p>	<p>〈適応菌種〉 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、モラクセラ(ブランハメラ)・カタラーリス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、プロピデンシア属、インフルエンザ菌、緑膿菌、アシネトバクター属、ペプトストレプトコッカス属、クロストリジウム属(クロストリジウム・ディフィシルを除く)、バクテロイデス属、プレボテラ属</p> <p>〈適応症〉 敗血症、肺炎、腎盂腎炎、複雑性膀胱炎、腹膜炎、腹腔内膿瘍、胆嚢炎、胆管炎 通常、成人にはタゾバクタムナトリウム・ピペラシリンナトリウムとして、1回4.5g(力価)を1日3回点滴静注する。肺炎の場合、症状、病態に応じて1日4回に増量できる。なお、必要に応じて、静脈内注射することもできる。 通常、小児には1回112.5mg(力価)/kgを1日3回点滴静注する。なお、必要に応じて、静脈内注射することもできる。また、症状、病態に応じて1回投与量を適宜減量できる。ただし、1回投与量の上限は成人における1回4.5g(力価)を超えないものとする。点滴静注に際しては補液に溶解して注射する。また、静脈内注射に際しては注射用水、生理食塩液又はブドウ糖注射液に溶解し、緩徐に注射する。</p>
<p>バズクロス点滴静注液 500 mg</p>	<p>〈適応菌種〉 バズフロキサシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、モラクセラ(ブランハメラ)・カタラーリス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロピデンシア属、インフルエンザ菌、緑膿菌、アシネトバクター属、レジオネラ属、バクテロイデス属、プレボテラ属</p> <p>〈適応症〉 ●敗血症 ●外傷・熱傷及び手術創等の二次感染 ●肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染 ●複雑性膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎(急性症、慢性症) ●腹膜炎、腹腔内膿瘍 ●胆嚢炎、胆管炎、肝膿瘍 ●子宮付属器炎、子宮旁結合織炎 通常、成人にはバズフロキサシンとして1日1000mgを2回に分けて点滴静注する。なお、年齢、症状に応じ、1日600mgを2回に分けて点滴静注するなど、減量すること。点滴静注に際しては、30分～1時間かけて投与すること。</p>
<p>メリアクト MS 小児用細粒 10%</p>	<p>小児 〈肺炎、中耳炎、副鼻腔炎の場合〉 通常、小児にはセフトレキシムとして1回3 mg(力価)/kgを1日3回食後に経口投与する。なお、必要に応じて1回6mg(力価)/kgまで投与できるが、成人での上限用量の1回200mg(力価)1日3回(1日600mg(力価))を超えないこととする。 〈上記以外の疾患の場合〉 通常、小児にはセフトレキシムとして1回3mg(力価)/kgを1日3回食後に経口投与する。なお、年齢及び症状に応じて適宜増減するが、成人での上限用量の1回200mg(力価)1日3回(1日600mg(力価))を超えないこととする。</p>